

“Dr. Feraruの美しくも的を射た補綴装置周囲組織の強拡大画像は、彼女のイシューを的確に物語り、裏付ける” —大河雅之



世界が注目する気鋭補綴医
Dr. Mirela Feraru

Mirela Feraru, D. M. D.は2005年にルーマニアのティミショアラ大学歯学部を卒業。

2009年、イスラエル、テルアビブのBichacho Clinicチームに加わる。過去8年間、Dr. Feraruは、補綴および歯周

形成外科による審美歯科治療に焦点を合わせて、補綴周辺の審美歯科のすべての分野で深い知識と経験を積む。また、現代の補綴学のさまざまな分野において、世界中での高度なプログラムやコースへの参加と研究を続けている。

Dr. Feraruは、歯科用写真のデジタル記録化する技術を身に着け、それらの幅広い経験を生かして、記事を書いたり、講義をしたり、ワークショップを通じて世界の仲間たちと密接に連絡を取り合っている。世界での出版および講演を通して彼女がフォーカスするのは、接着修復治療、インターディシプリナリーな最新の歯周・補綴治療、および最善の治療に貢献する臨床歯科の視覚化である。



EAED会長など要職を歴任
Prof. Nitzan Bichacho

Nitzan Bichacho, D.M.D.は、1984年、イスラエルのエルサレムにあるヘブライ大学歯科医学部卒業。ヘブライ大学、エルサレムのハダサ医学校で、補綴学の専門家であり教授。また、ヘブライ大学とテルアビブ大学の両方の歯科学校の口腔リハビリテーション学部において教鞭をとる。

欧州審美歯科学会 (EAED) の元会長および終身会員。世界のいくつかの協会の名誉会員であり、著名な歯科雑誌の編集委員も務めている。

Bichacho教授は、審美歯科における歯科インプラント療法、固定性補綴治療、学際的・革新的な治療法、において世界で出版、講義を行っている。

イスラエルのテルアビブにあるBichacho Clinicは、多岐分野にわたる治療に焦点を当て、世界的に著名な歯科技工士と協力している。

監修・翻訳は、日本の審美歯科界を牽引するこの3氏



Dr.山崎長郎 (監修)

1945年 長野県生まれ
1970年 東京歯科大学卒業
1974年 原宿デンタルオフィス開設
日本臨床歯科学会理事長



Dr.大河雅之 (訳)

1987年 東北歯科大学卒業
2001年 代官山アドレス歯科クリニック開設
2019年 日本歯科大学生命歯学部補綴II講座非常勤講師
日本臨床歯科学会 東京支部会長
日本臨床歯科学会理事 同学会委員会副委員長
奥羽大学歯学部同窓会本部 学術部長
EAED (ヨーロッパ審美歯科学会) 会員
AMED (米国マイクロスコープ歯科学会) 前理事
日本歯科審美学会 認定医



Dr.山本恒一 (訳)

1999年 大阪大学歯学部卒業
2004年 やまもと歯科クリニック開設
2011年 医療法人スマイルプラン設立
日本臨床歯科学会東京支部 会員
日本口腔インプラント学会 会員
日本歯科審美学会 会員
日本顕微鏡歯科学会 会員
日本顎咬合学会 会員

きりとり線

注文書 **デンタル・ビジュアルライゼーション** 臨床に役立つデジタル歯科用写真撮影のワークフロー

モリタ商品コード:208040743 _____ 冊注文します。

●お名前	●貴院名	●ご指定歯科商店
●ご住所 (〒)		
●TEL	●FAX	

支店・営業所

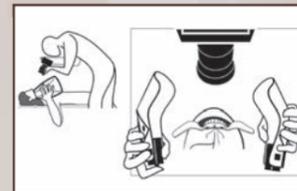
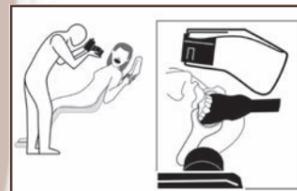
※ご記入いただいた個人情報は、弊社の新刊案内、講演会等の案内に利用させていただきます。
※ご指定歯科商店がない場合は送料をいただき、代金引換宅配便でお送り致します。

2020-11

デンタル・ビジュアルライゼーション

臨床に役立つデジタル歯科用写真撮影のワークフロー

MIRELA FERARU / NITZAN BICHACHO [著]



●定価本体：18,000円(税別) ●A4判変型 ●248ページ

山崎長郎 [監修] 大河雅之 / 山本恒一 [訳]

多くの実例を見て学べる、ワールドクラスな歯科臨床写真撮影のワークフロー！
欧米でのリリース以来、話題の1冊がついに日本語版に！

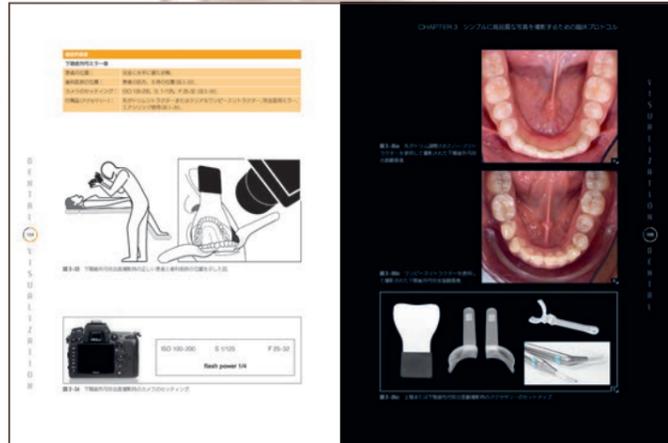
欧州をはじめ、世界的に著名な補綴・インプラント医の夫妻が著した歯科用デジタル写真撮影の解説書。なぜ、歯科臨床写真が必要なのか？ という問いかけにはじまり、必要な機材や、診療室での具体的な使用方法について解説。また、口腔内写真、顔貌写真、修復治療での写真、矯正治療での写真、歯周治療での写真など、状況に応じた撮影テクニックが明快に示されている。 **審美性と規格性を両立する、歯科臨床写真の最新指南書！**

いつの日も変わらない、変えてはいけないスタンダードな規格性と……



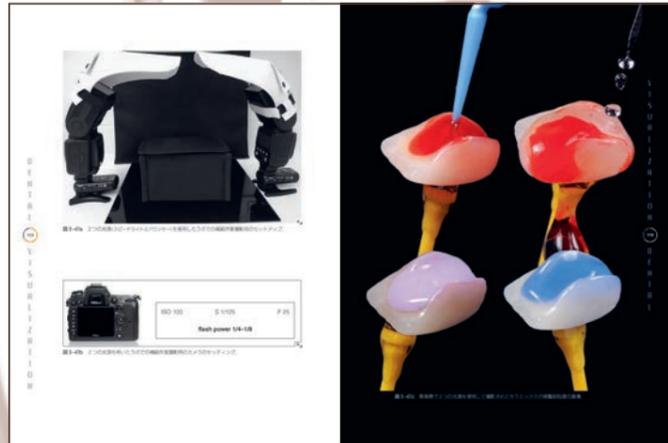
01 ハイクオリティな歯科写真の基本原則

この序章では、「なぜ、歯科臨床写真が必要なのか」という問いについて、著者ら自身のフィロソフィーを提示。患者とのコミュニケーションの可視化、同僚や歯科技工士との情報共有、そしてインターディシプリナリートリートメントなど、写真によるドキュメンテーションがいかに歯科医療の質を高めるかについて説く。



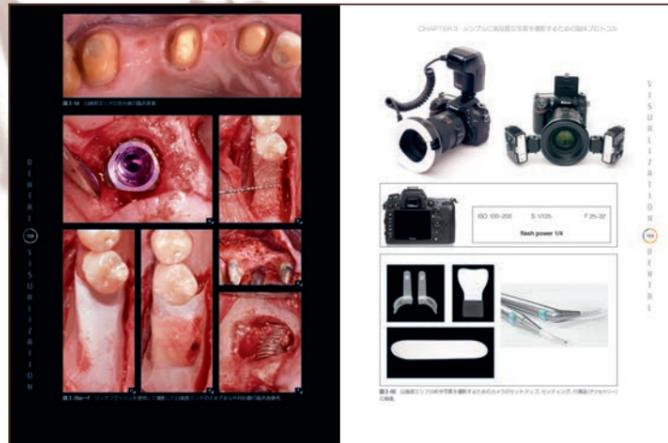
02 デジタル歯科用写真の使用機材

標題のとおり、カメラボディ、レンズ、フラッシュやチークリトラクターなど、著者が実際に使用している機材とその用法について詳説。特定の機種の説明にとどまらず、一般性をもたせた記述となっており、すでにカメラを所有している場合でもそうでない場合でも安心して読むことができる。



03 シンプルに高品質な写真を撮影するための臨床プロトコル

顔貌写真と口腔内写真、そして技工物の撮影の基本を学ぶことができる。それぞれの状況や目的に応じ、患者の位置付けやライト／カメラの配置、そして露出（シャッター速度、絞り、ISO感度の組み合わせ）が示されており、読者がすぐに試すことができる。



04 さまざまな特殊ケースに応じた撮影シーケンスとセッティング

本章では、前章で学んだシンプルなプロトコルを基に、修復治療、矯正治療（静的な矯正治療の画像記録／動的な矯正治療の画像記録）、歯周治療、そして補綴治療と、それぞれの分野でとくに求められる写真記録の方法について解説。海外のプレゼンテーションで目にするさまざまな角度から多数撮影した顔貌写真や、黒い背景で前歯部の表面性状を逆光で写し込んだような、患者や聴衆の印象に残る写真の撮影法などを学ぶことができる。

……患者の個性を引き出すための、審美写真撮影のテクニックが共存する良書！

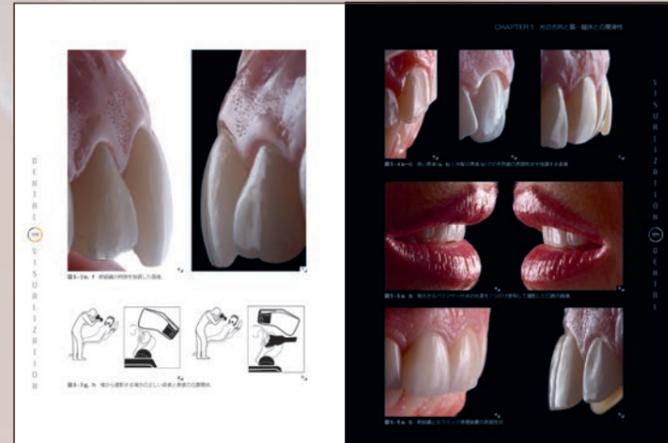
05 光の方向と質—臨床との関連性

本章では、主にオフカメラ（レンズ先端から取り外し、ワイヤレスで発光できる）のツインフラッシュを用い、さまざまな方向からのライティングを行った例を提示。ふだんの撮影法から一歩踏み出すことで、新しい視点を手に入れることができる。



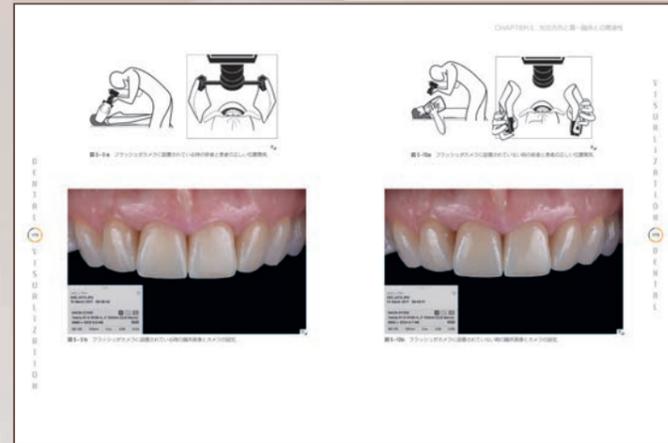
06 トラブルシューティング

ここでは標題のとおり、明るすぎる／暗すぎる、画像の一部が写らなくなる、色が正確でない、つねに写真の同じ位置に黒い点が映り込む、といったトラブルへの対処法が示されている。



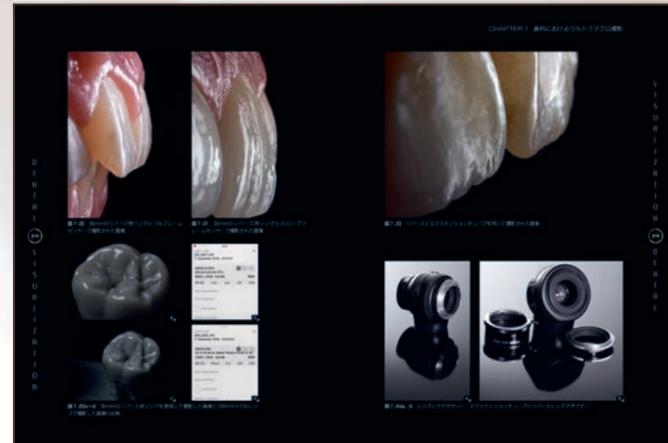
07 歯科におけるウルトラマクロ撮影

ここでは歯科用写真に用いられるマクロレンズに加え、エクステンションチューブを用いた強拡大撮影、およびリバースアダプターを用いた強拡大撮影について解説。手持ちのマクロレンズでは被写体に寄りきれない場合に追加する機材と使用方法を知ることができる。



08 DSD—デジタルスマイルデザイン

Dr. Christian Coarchman（歯科医師・ブラジル開業）が提唱する、日本国内にも愛用者が多い「DSD: Digital Smile Design」に使用する写真には特別な規格性が求められるが、本章ではその8ステップにわたる撮影法を簡潔に紹介。



09 歯科写真撮影専用設計された装置

歯科写真撮影では一眼レフカメラを用いることが基本であるが、状況に応じてより簡便な撮影が行える装置を利用することも効率性につながる。ここではアイスペシャルC-III（松風）とSMILE LIGHT MDP（Smile Line, YAMAKIN）を紹介。